



2018年3月8日

早稲田大学

慶應義塾大学

早稲田大学図書館・慶應義塾大学メディアセンター

共同運用図書館システムに Ex Libris 社の Alma・Primo VE の採用を決定

早稲田大学図書館と慶應義塾大学メディアセンター（図書館）は、日本初の図書館システム共同運用に向けた覚書に基づき、イスラエルに本社を持つ Ex Libris 社の Alma（*1）および Primo VE（*2）を共同運用図書館システムに採用することを決定しました。

早稲田大学と慶應義塾大学は、1986年4月1日より「早稲田大学および慶應義塾の図書館相互利用に関する協定書」を締結し、専任教職員・大学院生・学部生が図書館を相互利用できる仕組みを活用してきましたが、2017年5月12日にこの枠組みをさらに拡大して、図書館システムの共同運用に向けた覚書を締結し、システム選定の準備を進めてきました。

このたび採用を決定した Ex Libris 社の同システムは、ケンブリッジ大学やハーバード大学をはじめとする海外の名門大学図書館で運用の実績があります。今回の導入により、両大学の連携によって 1,000 万冊規模の図書館が実現します。また、従来の図書館業務の改善に加え、ジャーナル等の電子資料の契約・アクセス管理を一元的に行うことが可能となり、より安定的かつ国際標準に準拠した学術情報を提供できる環境が整うことが期待されます。今後、両大学において、2019 年度中の稼働を目指し連携して準備を進めていきます。

(*1) Alma: 紙の図書、雑誌と電子ジャーナル等の購読契約のある電子情報を統合的に管理できるクラウド型図書館システム。2017年9月時点で 33ヶ国 1000 機関が採用している。

(*2) Primo VE: 図書館利用者が、蔵書、契約電子情報に加え、論文データをまとめて横断的に検索することが可能なプラットフォーム。ディスカバリーと呼ばれている。

共同運用によるメリット

- (1) 共同運用による利用者サービス・資料の充実
- (2) システム共同運用による運用の安定化とコスト削減
- (3) 目録形式の標準化、目録作成のコスト削減
- (4) 早慶間での知識/経験の共有、人的交流の促進



早稲田大学



慶應義塾大学



(左) 早稲田大学図書館長 深澤良彰、(中) Ex Libris 社副社長 Ziv Benzvi 氏、(右) 慶應義塾大学メディアセンター所長 赤木完爾

◆お問い合わせ先

早稲田大学広報室広報課 担当：広野 電話：03-3202-5454 メール：koho@list.waseda.jp

慶應義塾広報室 担当：村上 電話：03-5427-1541 メール：m-koho@adst.keio.ac.jp